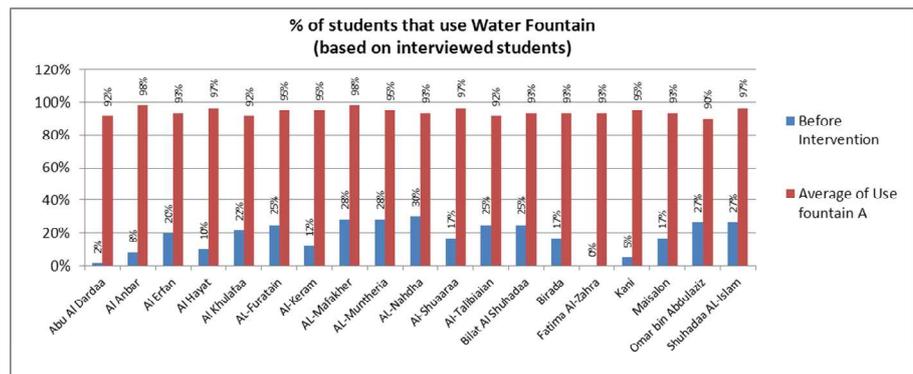


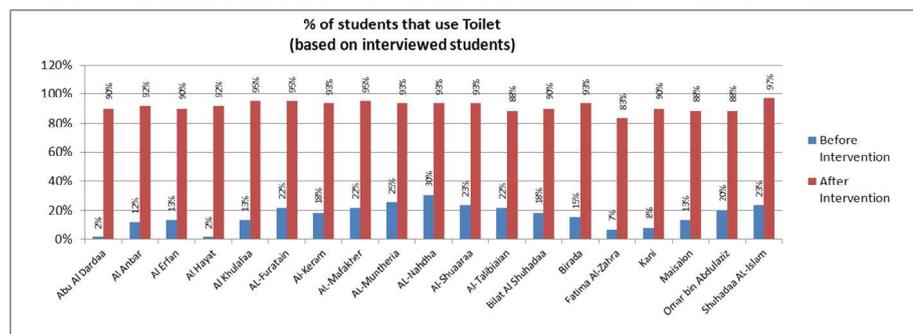
2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	イラク中部・北部の小中学生の生徒 9,170 名、教職員 563 名の教育環境が整備され、安全で衛生的な学習環境を確保することが達成された。
(2) 事業内容	<p>本事業において、申請時当初はバグダッド、アンバール、バビル、ディヤラ、キルクークの 5 県における小中学校 15 校の修復を予定していた。しかし、事業開始後、業者入札によって、修復価格を当初の予算より下げることができた。依然、事業対象県には多くの破損した学校が存在し、修復のニーズが高いことから、イラク教育省・教育局と綿密に調整を行い、修復対象校を 19 校に増やした。(2012 年 5 月 1 日、外務省承認済) なお、事業対象校の選定にあたっては、前事業(第 2 フェーズ)同様、JEN エンジニアが各県の教育局から優先的に修復が必要な小中学校のリストを取得し、リスト上の学校の事前アセスメントを行って、基準①給水設備が破損し、機能していない②校内の設備の損壊が、児童・生徒の怪我の危険を脅かしたり、害虫の発生など健康被害の危険性がある状態である③貧困地区や取り残された地域にある④今後、避難民または帰還民の流入が見込まれる地域にある⑤地域に公共の給水設備や下水設備があるが、学校の水・衛生設備とはつながっていない、に基づき評価し、選定を行った。</p> <p>実施した事業内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 事業対象校 19 校の水・衛生施設の修復、各校 6 個(合計 114 個)の水浄化タンクの設置、損壊したトイレや教室の電気設備、窓の修復の実施。修復作業終了後は、19 校すべてイラク教育省へ引き渡し完了。 (ロ) 修復対象校 19 校の教職員 244 名(別添資料①参照)に対する 2 日間の衛生ワークショップの開催。手洗い、うがいの推奨、掃除の重要性などの衛生教育および、教職員から生徒への模擬レクチャーの実施。19 校に対する、衛生促進授業用教科書(小学生用/中学生用、教職員用)、衛生促進教材(ポスター 2 種、机上ゴミ箱、はみがきカレンダー・メダル)、衛生キット(歯ブラシ、歯磨き粉、石鹸、ハンドタオル)、清掃用具(木製ブラシ、プラスチック製ホウキ、ゴミ箱、水バケツ、トイレ用ラバーカップ、トイレブラシ、清掃用ティッシュ、ゴムホース、ゴミ箱大(240 リットル)、清掃用洗剤)の配布。 (ハ) 事業対象校 19 校への、修復された水・衛生施設や教室の維持・管理を担う学校管理委員会の設立。
(3) 達成された効果	<p>本事業の予定裨益者数は、15 校生徒 8,466 人(男子 6,472 人、女子 1,994 人)及び教員 490 人の合計 8,956 人あった。事業開始後、対象とした 6 校に関してはイラク教育局の予約が取れていたにも関わらず、他支援団体が修復に着手していたため、対象校を変更した。それに伴い、一時予定裨益者数が生徒 7,397 人および教員 447 人の合計 7,844 人となった。しかし、事業期間中 4 校が対象として追加されたことにより、全 19 校の裨益者数が生徒 9,170 名(男子 6,172 名、女性 2,998 名)及び教員 563 名となった。</p> <p>事業対象 19 校 1,020 名に実施した聞き取り調査によると学校にお</p>

けるトイレ、水道使用率が改善された。事業前、学校におけるトイレ使用率は16%と低く、用を足すために家に帰らなくてはならない状況により遅刻、早退が発生していた。しかし修復後にはトイレの使用率が平均92%に増加した。これは修復前のトイレの故障や不衛生な状態が著しかったことを示しているといえる。また、事業前、事業後の水道使用率が18%から94%に増加した。これも、修復前の洗面所の破損状況が著しかったことを示しているといえる。各学校の校長への事前事後調査によると、対象校の生徒の下痢発生については、事業実施前では、対象校全生徒のうち338名が下痢症状を訴えていたのに対し、事業実施後では83名に減少した。また、下痢症状に限らず医者を受診した生徒の数は、事業前が1132名であったのに対し、事業後は261名となり、つまり77%減少という結果が得られた。上記修復事業により、生徒たちはトイレ使用目的のために家に帰る必要がなくなり、トイレ使用後や食事前に学校で手を洗うことができるようになった。トイレ、水道修復が生徒の水施設使用率を改善し、結果として生徒の下痢発生率を抑え、教育環境の改善に貢献したといえる。

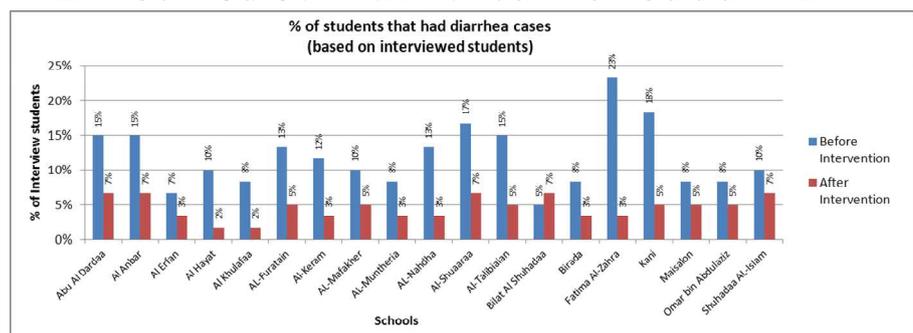
(図1. 学校別事前事後水道使用率、調査対象 生徒1,020名)



(図2. 学校別事前事後トイレ使用率、調査対象 生徒1,020名)

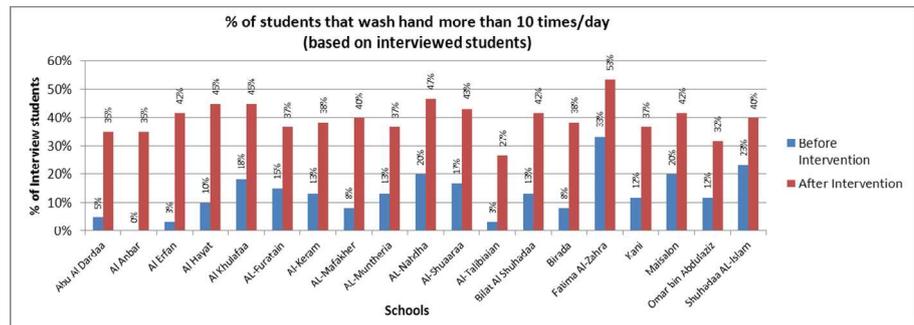


(図3. 学校別事前事後下痢発症率、調査対象 学校校長19名)

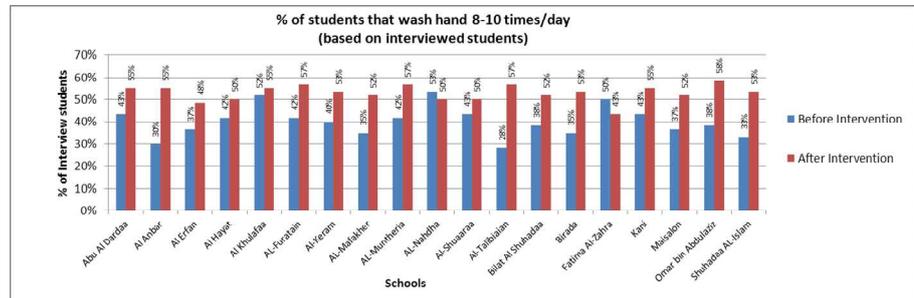


事業対象 19 校で実施された衛生ワークショップでは、事業前、事業後における生徒の衛生習慣行動の改善がみられた。JEN による調査では、学生による石鹸を使っての手洗い実施率については、1 日に 10 回以上手洗いを行う生徒は、事業前は平均 12%であったのに対し、事業後には 39%に改善された。また、1 日に 8~10 回手を洗う生徒は、事業前 40%だったのが、事業後には 53%になった。また、歯ブラシの習慣に関しては、衛生教育ワークショップ実施前は 27%の生徒のみが歯磨きを持ってきたのに対し、実施後は 74%に増加した。これより、対象生徒の手洗い、歯磨きなどの衛生習慣が改善されたといえる。

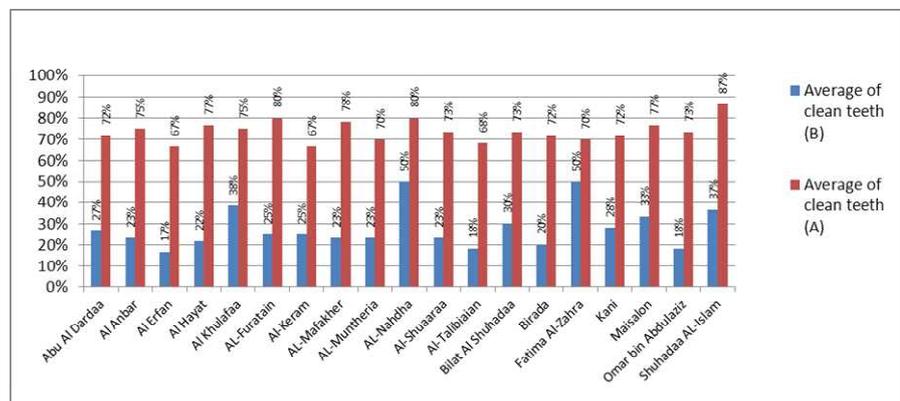
(図 4. 学校別事前事後 1 日 10 回以上の手洗い実施率、調査対象 生徒 1,020 名)



(図 5. 学校別事前事後一日 8~10 回の手洗い実施率、調査対象 生徒 1,020 名)



(図 6. 学校別事前事後歯みがき実施率、調査対象 生徒 1,020 名)



また、事業対象 19 校の窓、電気設備などの学校環境が修復されたことにより、割れたガラスによる事故を回避し、夏は 50 度にも至る

	<p>イラクにおいて、熱風を遮断し、扇風機の使用により生徒が勉強に集中できる環境づくりを提供することを達成した。</p> <p>上記成果により、19校全ての学校において施設の修復前と修復後で生徒数の増加がみられ、2011年12月～2012年1月に調査した生徒数に比べ、2012年9～10月に調査した各学校の生徒数は全校平均で約11%増加し、合計で10,161人の児童・生徒となった(別添資料②参照)。対象校におけるトイレ・水道の修復により、19の対象校の生徒10,161人及び教員563名の学校における学習環境および衛生環境の改善を達成できた。</p>
(4) 持続発展性	<p>事業期間中に各学校に設立された、PTA総会メンバーから有志にて立候補した保護者および教職員による学校管理委員会によって、修復された学校施設が事業終了後も改善された環境を維持することが可能となった。また、本ワークショップにおいては対象となった教職員に対する衛生知識の教育手法を研修したので、事業終了後も継続的に衛生知識について生徒に注意を促すことができる。さらに、本事業期間中、生徒たちに向けた教材開発に関して、教育省や教育局が積極的に参加してきたため、今後は教育省や教育局が中心となってイラクの生徒たちへの教育開発、衛生知識の普及についての持続発展性が期待される。</p>